郷土大内の歴史

時代	西暦	できごと
縄文		御堀・長野宮の馬場・仁保下郷などに集落があった
弥生		仁保・矢田・氷上・御堀・問田などに弥生遺跡がみられた
古墳	六一一	仁保川ぞいに大塚古墳・生森古墳など多くの古墳がつくられた
大和	六一三	大内氏の祖・琳聖太子が朝鮮百済からわたってきて周防の国についたと伝えられる
	六四六	琳聖太子が氷上山興隆寺をたてたと伝えられる
	七〇八	周防国吉敷郡八田里(矢田)仲河里(御堀)ができた
奈良	七七〇	長門・周防に「鋳鋳司」をおき、「和同開珎」がつくられた
	八二七	里を郷と改め、八田郷・仲河郷と名前がかわった
平安	九一三	氷上山妙見社のもとがつくられたと伝えられる
	一〇八九	桜木神社をたてたと伝えられる
	一一五一	長野八幡宮のもとがつくられたと伝えられる
	一一八五	多々良氏が菅内に仁平寺をたてた
	一一八六	源平の戦いで大内氏が源氏にみかたをした
	一一九七	周防国大内村地域が東大寺領になった
	一二五七	平子重経が仁保の荘などの地頭についた
鎌倉	一三〇八	このころの書物に、初めて「山口」の名が出てきた
	一三三六	大内重弘が御堀に館をかまえた
	一三五五	大内長弘が周防国守護となった
町室	一三六〇	大内弘世が厚東氏を討ち、長門も治めた
	一三九七	大内弘世が本拠地を山口に移し、京都にまねた街づくりをした
	一四四二	大内義弘が小野の地蔵院をたてたと伝えられる
	一四六一	大内盛見が香積寺の五重の塔をたてた
	一四八五	雪舟が山口に来て雲谷庵に住んだ
	一五〇〇	大内政弘が応仁の乱であれた京の街から、公家、ゆうめい文化人を山口にまねきもてなした
	一五五〇	このころ、大内塗がつくられていた
	一五五一	このころ、山口の人口はおよそ五万人で「西の京」とよばれた
	一五五二	フランシスコ・ザビエルが山口に来てキリスト教を布教した
	一五五六	大内義隆が陶晴賢に滅ぼされ、大内氏の正統が絶えた
	一五五七	大内晴英が山口に入り、大内氏を継いで大内義長となのった
		戦乱のため、山口市街のほとんどが焼けた
		毛利元就が大内義長を攻め、大内氏がほろんだ。このため防長二国は毛利氏の領地となった

一六〇〇	山口宰判大内村となった
一六〇四	毛利氏の居城が山口から萩に移った
一六六九	御堀村で大火事があった
一七一〇	二義少年（清介、角左衛門）が農民の窮状を直訴したため処刑された
一八一三	伊能忠敬が日本地図作成のため測量にきた
一八一五	上田鳳陽が「山口講堂」をつくり、授業をした
一八六九	山口宰判から吉敷郡長野村・御堀村となった
一八八七	鯖山勝坂トンネルが開通した
一八八九	町村制ができたため、御堀・矢田・長野の三つの村を合併し、大内村となった
一八九二	大内尋常小学校ができた
一八九六	御堀に県農事試験場ができた
一八九八	山口電燈会社ができ、大内村にも電燈がついた
一九〇二	御堀に山口川向郵便受取所ができた
一九〇七	矢田に大内郵便局ができた
一九一〇	大雨のため仁保川が大洪水になった
一九一五	大内村役場に電話がついた
一九二二	国鉄山口線が全線開通した
一九三一	省営バスが、山口―三田尻間の運転をはじめた
一九三五	山口市に上水道ができ、水がくばられるようになった
一九四七	大内中学校ができた
一九四八	大内村公民館ができた
一九五二	大内村保育園ができた
一九五五	県立育成学校ができた
一九六三	大内村教育委員会ができた
一九六八	大内・仁保・小鯖を合併して、大内町ができた
一九六九	国道二六二号線ができた
一九七〇	大内町が山口市に合併した
一九七二	小学校前の国道に横断橋ができた
一九七九	仁保に全国で二番目の山口えい星通信所ができた
一九八一	テレビ山口が放送をはじめた
一九八二	御堀に山口ガス会社の工場ができた
一九八三	山口線に観光のため、またSLが走りはじめた
一九八四	長野に市民運動広場のすべての施設が完成した
	菅内に不燃物処理場ができた
	国道二六二号大内―宮野バイパスができた
	中国自動車道の全線が開通した
	山口県庁舎が新しくたてかわった